

敬語は距離？

——尾道の方言「ちやった」を考える——

藤本 真理子

一 はじめに

本稿は、「三成地区の歴史と備後地方の自然探訪教室」にて二〇一九年六月一六日に行った、広島県尾道市方言の「くちやった」に関する講演にもとづくものである。

(1) 【尾道方言】「先生、どこから来ちやったん？」

(1) は「来てはいけなかったのだろうか」と、尾道に初めて来た人は少し面食らう表現である。この「くちやった」は、尾道市内に限らず、『これが広島弁じゃ！』（灰谷二〇一六）にあるとおり、広島県の方言として広く確認できる。(1)では「ちやっ

た」は敬語として用いられており、「先生は、どこからいらつしやったか」という意で使用される。しかし、標準語では「くしてしまった」という意味になるため、先に示したとおり、「ちやった」を(1)のように使用しない人は「来る」ことが何か失敗であったのだろうか、とまどうことになる。

本稿では、どのような人に対し、どのような場面で敬語の「ちやった」を使うことができるのか、その運用を尾道を中心に考えることを目指す。次節ではまず、尾道方言と東京方言の「ちやった」の意味を確認し、三節は、尾道方言と東京方言において、意味の異なる「ちやった」がそれぞれどのように成立したかについて、音変化の様子を示す。続く四節では、日本語地図から待遇表現の項を確認し、言

語調査から尾道方言の「ちやった」について考察を行う。五節はまとめである。

なお、講演の場で、会場にお越しの方からご意見をいただき、四節に示した全国方言調査の項目を通してそれぞれの運用を確認することとなった。それらを踏まえて、尾道方言の「ちやった」を考察している。

二 尾道方言と東京方言の「ちやった」の意味

尾道方言では、(2)のような「ちやった」が見られる。

(2) 【広島方言】

a カープのレジエンド、山本浩二さんが来
ちやった

b あ、先輩髪切つちやったんですね

(灰谷二〇一六)

(2a) で、「来た」のはだれかというところ、「山本浩二さん」であり、「カープのレジエンド」と形容されることからわかるとおり、「来た」の尊敬語と

して「来ちやった」が用いられている。(2b)も「先輩」に向かって、その髪について述べる際に「切ちやった」が用いられていることから、尊敬語の「ちやった」の例であると認められる。

一方、(3) (4) は東京方言の「ちやった」の例である。

(3) 【東京方言 (標準語)】

え!? 苦手な先生が来ちやった

(4) 【東京方言 (標準語)】

あ〜っ!! 大事な指輪をどこかで落として
ちやった

(3) で「来た」のは、「苦手な」という修飾語がつく「先生」であり、「来た」ことが歓迎されておらず、その期待はずれの状況を表すために「来ちやった」が用いられている。また(4)の主語は話し手自身であり、「落としちゃった」は、「大事な指輪を落とす」という不注意からくる自分の失敗を述べるのに「ちやった」が用いられている。

(5) 早く宿題を済ませちゃいなさい

東京方言(標準語)の(3)(4)に見られる「ちゃった」は、(5)の「済ませちゃう」にあるような完了の意の「てしまう」である。

三 尾道方言と東京方言の「ちゃった」の成立

本節では、尾道方言と東京方言の「ちゃった」の成立過程を示す。尾道方言の「ちゃった」は、(6)にあげたような変化を経て成立している。助詞の「て」にコピュラの「じゃ」が加わった「てじゃ」を過去形にして用いている。

(6) 「ちゃった」【尾道方言】

「て」+「じゃ」+「た」 ↓ 「て(じ)やった」
↓ 「てやった」 ↓ 「ちゃった」

(6)で示した助詞「て」は、テ敬語やテヤ敬語と呼ばれるものであり、現在時制では、(7)のように用いられる。

(7) a 広島まで行つてんですか？

b お客さん、どこまで乗つてんですか？

c 明日、来てんですか？

(灰谷二〇一六)

次に、東京方言の「ちゃった」は、前節で示したように、「てしまった」がもともとの形であり、(8)にあげたような変化を経て成立している。(8)の変化の過程には、(9)のような「つちまった」の形も現れる。

(8) 「ちゃった」【東京方言】

「て」+「しまう」+「た」 ↓ 「てしまった」
↓ 「て(し)い(ま)あつた」 ↓ 「ていあつた」
↓ 「ちゃった」

(9) 汚れつちまった悲しみに(中原中也)

このように別々の過程を経て、それぞれの「ちゃった」は成立している。

四 尾道方言の「ちゃった」の考察

四・一 日本語地図からみた尾道方言の敬語運用

国立国語研究所などを中心に、方言調査は全国で行われ、その結果はこれまでもまとめられている。結果の多くはインターネット上に公開されており、だれもが参照できるようになっている。たとえば日本語地図もその一つで、全国方言分布調査を地図化したものであり、その調査は語彙・音韻・文法などの項目に沿って行われている。講演では、そのような調査結果のひとつである方言文法全国地図¹で示されている中国地方や、広島県、さらに尾道市の方言の調査結果を紹介し、言語地図の見方について説明を行った。さらに二〇一〇年から二〇一五年にかけての全国方言分布調査の結果がまとめられた『新日本語地図』(朝倉書店、二〇一六年)を用い、言語地図から尾道の情報を読みとった。以下、尾道市周辺の対者待遇と第三者待遇をそれぞれ確認していく。

自分の父にむかって、「あしたは家にいるか」と聞くとき、「家にいるか」のところをどのように言いますか。

回答…オル

(11) 【143図】〈先生が〉来る―父親に

自分の父親にむかって、「もうすぐ先生が来る」と言うとき、「先生が来る」のところをどのように言いますか。

回答…キテ

(12) 【144図】〈先生が〉来る―親しい友達に

親しい友達にむかって、「もうすぐ先生が来る」と言うとき、「先生が来る」のところをどのように言いますか。

回答…キテ／クル

(13) 【142図】〈先生が〉来る―近所の知り合いに

近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに「もうすぐ先生が来る」と言うとき、「先生が来る」のところをどのように言いますか。

回答…キテ／キテヤ／コラレル

(10) 【147図】〈聞き手が〉いるか―父親に

(14) 【14図】〈聞き手が〉来るか―土地の目上に

この土地の目上の人にむかって、ひじょうに
ていねいに「あしたもここに来るか」と聞くと
き、「ここに来るか」のところをどのように言
いますか。

回答…コラレル／オイデニナル／キテ

(15) 【145図】〈父親が〉来る―親しい友達に

親しい友達にむかって、「もうすぐ自分の父
親が来る」と言うとき、「自分の父親が来る」
のところをどのように言いますか。

回答…クル

講演では、(10)～(15)に示した質問文の回答
を参加者とともに確認した。七〇～八〇代の参加者
が多い中、概ね今回示した『新日本語地図』の回
答と同様の結果が得られた。会場では、「昨日も来
たか」のような問いかけをするとき、話す相手によっ
て「ちゃった」を使う場合と使わない場合があると
いうことを参加者から聞くことができた。「近所の
知り合いの人にむかって、ややていねいに」話すと
きは「来ちゃった」のように「ちゃった」を使う。

これは(13)の回答の「キテ／キテヤ」と対応を見
せる。しかしながら(14)の回答では「キテ」が見
られるのに対し、会場の参加者による回答では「こ
の土地の目上の人にむかって、ひじょうにていね
いに」話すときは「来られた」「おいでになった」と
なり、「ちゃった」はあまり使わないだろうとあった。

四・二 尾道方言の「ちゃった」の考察

―言語調査を通して―

講演では、(10)～(15)に加え、次の(16)～
(18)の質問文についても、参加者それぞれに回答
を考える時間をとった。

(16) 【140図改め】

この土地の目上の人にむかって、ひじょうに
ていねいに「もう新しいスーパーに行ったか」
と聞くと、「スーパーに行ったか」のところ
をどのように言いますか。

(17) 【142図改め】

近所の知り合いの人にむかって、ややていね

いに「もう先生は来て、帰った」と言うとき、「先生は来て、帰った」のころをどのように言いますか。

(18) 【144図改め】

親しい友達にむかって、「もう先生は来て、帰った」と言うとき、「先生は来て、帰った」のころをどのように言いますか。

残念ながら、(16) く(18) について、個別の回答を確認することは今回できなかったため、これについては今後の課題である。ただし、参加者からは次のような文を得ることができた。

- (19) a あなたは、今、何と ユーテクレチャツタ
b あなたは、今、何と イワレマシタカ

(19 a・b) はともに、同一の話者からの回答である。これら二つを同一の話者が使うという回答を得たことから、話者が二つを使い分けている可能性が考えられる。一節で示したように「ちゃった」が尊敬語の敬語として用いられる一方、尾道方言話

者は、(19 b) のようなレル・ラレル形の敬語も用いるということになる。これは、四・一節の(13) (14) でも確認されたことである。ここから考えられる「ちゃった」の意味と機能については、関西方言の「はる」にヒントを得ることができる。関西方言の「はる」敬語については、辻(二〇〇九)に詳しいが、滝浦(二〇〇八)で次のように示され、「ハル」の機能が、対象をソト待遇することによる遠隔化ではなく、対象をウチ的にとらえる近接化にあることは明らかになるだろう」と述べられる。

「はる」の機能

(20) 【関西方言】

- a 山田さん、いてはる(いてはりますか)？
「ウチ的」「ハル」
b 田中先生、おられますか？
「ソト的」「レル」

(滝浦二〇〇八：七一、(14) (15) を筆者改め)

関西方言の「ハル」と同様、尾道方言の「ちゃった」も〈近づけ〉としての機能を帯びてきていると考えられる。灰谷(二〇一六)においても(21)の

例を挙げて、「尊敬の意味が薄まってきて、もう少し軽い丁寧語レベルで使われることが多く」なったことが指摘される。

(21) 【広島方言】

黒田先生、どこ行っちゃってんですか

(灰谷二〇一六)

(21) では、「ちゃった」に加え、「て」が敬語として用いられている。「ちゃった」が尊敬語として十分に機能しているならば、「て」をさらに尊敬語として加える必要はないため、このような表現が見られることは「ちゃった」の意味の変容を表す。

五 まとめ

本稿では、尾道方言の「ちゃった」について、形式上は同じものが標準語にもあるが、成立が異なることを見てきた。また、敬語として使用される「ちゃった」に、現在、意味の変容が見られるようになってきていることを示し、同じ方言を使用する人どうしの〈近づけ〉の機能を含むことを確認した。

会場では、参加者自身がどのように「ちゃった」を使用しているかについて多くの例を挙げていただいた。また今回は、「ちゃった」という語に注目した話を行ったが、「おるえ」や「来るど」といった終助詞についても指摘をいただいた。これらについても、敬語や話し手と聞き手の関係を示す言語表現として、今後、考察していく必要がある。

注

1 (https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/dp/gaj-pdf/gaj-pdf_index.html) 参照。

参考文献

大西拓一郎編 (二〇一六) 『新日本言語地図―分布図で見渡す方言の世界―』、朝倉書店
滝浦真人 (二〇〇八) 『ポライトネス入門』、研究社
辻加代子 (二〇〇九) 『ハル』敬語考―京都語の社会言語史―、ひつじ書房
灰谷謙二 (二〇一六) 『これが広島弁じゃ!』、洋泉社

—ふじもと・まりこ 日本文学科准教授—